

南支部活動報告

南支部圏域で活躍している中堅理学療法士による若手理学療法士をインスパイアさせるための研修会開催（第2回）

『パーキンソン病患者の臨床症状の理解と理学療法アプローチ』

April the 30th, 2015

平成 27 年 4 月 30 日(木) 19 時 30 分～21 時

講師: **倉敷記念病院 久我宜正先生**

参加者: 93 名(学生・1～5 年目のセラピスト)

会場: 川崎リハビリテーション学院 8 階講堂



今回は久我先生より、パーキンソン病における、病態理解、臨床症状とメカニズム、予後予測から、介入エビデンスの整理と実戦など一連の基礎知識から臨床におけるヒントなど、幅広く講義をして頂きました。加え、先生自身がパーキン

ソン病の臨床、研究に取り組むことになったきっかけと、理学療法、仕事における先生の考え方を自身の現在までの歩みを踏まえつつ語って頂きました。

【参加者のコメント】しげい病院 理学療法士 福井悠貴さん

平成 27 年 4 月 30 日に岡山県理学療法士会南支部で開催された、第 2 回若手のゴールドエンルーキ理学療法士たちへの研修会に参加させて頂きました。今回は、倉敷記念病院の久我宜正先生による「パーキンソン病の臨床症状と理学療法」でした。

今回の研修会もたくさんの参加者がいてとても活気のある会でした。講義は、専門学的に学ばれている久我先生の豊富なデータに基づき、基本的なことから多くの情報をわかりやすく説明して頂きとても参考になりました。また、明日からの臨床に役立つ内容も多く、実際の症例と照らし合わせて聴講できたのでとても勉強になりました。

特にこの研修会を通して印象的だったのが、中堅理学療法士の先生方の講義を聴講することで、先生方の活躍や熱意が刺激となり自身のモチベーションアップに繋げることができたことです。更に、5 年後 10 年後の理学療法士像が描きやすく、どのような活動をしていきたいか、どのようになっていきたいかなど再度考えていく機会のもとなりました。また、この研修会に参加することで、同じ支部で働かれています中堅理学療法士の先生方の活躍を知ることができるため、若手と中堅理学療法士の交流の場ともなりとても貴重な時間を過ごすことができていると思います。今後も、このような研修会を通して尽力していきたいと思えます。

—支部長より—

久我先生とこの度の研修会についてのやり取りをする中で印象的であったのが、「自身をもっと高めたい」という強い向上心であった。社会的地位や名声などではなく、患者さんのために理学療法士として自分が納得できる答えを追い続けたいという純粋な想いを感じた。本研修会では今までの先生の取り組みをまとめる機会となり、それを先生自身の言葉で多くの人に表現したことで、これを一つの経験として、今後もっと強い志で組織、地域をリードしてゆく人材となると確信し、心強く感じた。「組織、患者さんに認められて、信頼されてから、その上で初めて自分のやりたいことができるようになってくる」という先生の言葉は大いに共感できた。一見、「自分のやりたい事に専念し、その道を突き進め！」という文言はものすごくカッコいい。しかしながら実際その道を実現し、成功している人達は、間違いなく「やるべきこと、やれること」を着実にこなしてきた人たちであろう。やるべきことを実直に丁寧にこなしてゆけば、やれることが増え、最後にやりたいことができるようになる（見えてくる）。久我先生から自身の可能性を自身で切り開いて行く力強さを感じた。

—御礼—

岡山県内の各養成校の先生方、ならびに川崎リハビリテーション学院の苫野稔先生を始め教職員、学生の皆さまには、案内の配布、会場準備、資料作り等ご高配、ご尽力頂いたことに感謝致します。今後ともご理解とご支援の程頂きたく何卒よろしくお願い致します。

南支部 津田陽一郎

The next lecture

倉敷平成病院 戸田晴貴

Haruki TODA, RPT

2015年 6月末 予定